

女性の単身世帯の消費

- 家計調査(単身世帯)結果より -

一口に単身世帯の消費といっても、男女別や年齢階級別に支出額やその内訳は大きく異なっています。そこで、今回は家計調査の結果から、女性の単身世帯の消費について見てみましょう。

交際費の割合が高い60歳以上の世帯

まず、年齢階級(3区分)別に平成17年における消費支出の費目別構成比を見てみましょう。

35歳未満では、「住居」、「被服及び履物」、「教養娯楽」の割合が他の年齢階級に比べて高くなっています。

35～59歳では、「交通・通信」の割合が他の年齢階級に比べて高くなっています。

60歳以上では、「光熱・水道」、「保健医療」、「交際費」の割合が他の年齢階級に比べて高くなっており、特に「交際費」は18.2%と35歳未満の世帯の6.5%に比べ10ポイント以上も高くなっています(図1)。

若年層の食料に占める外食の割合は約5割

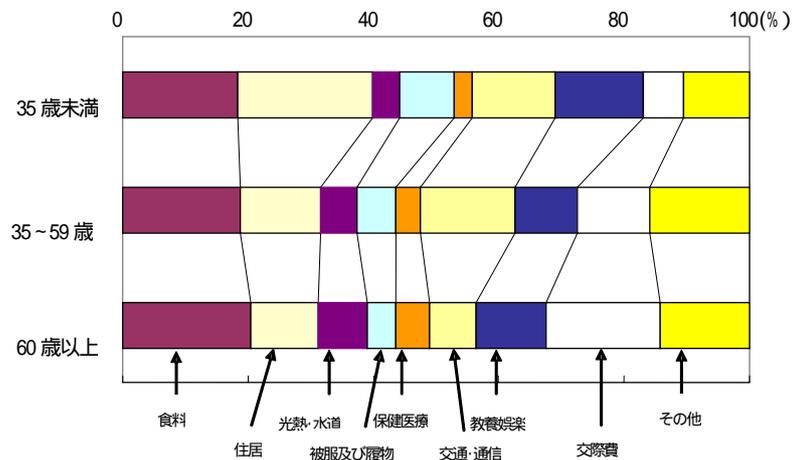
次に、費目別の構成比では大きな差がみられなかった「食料」について、その内訳をみると、「外食」の割合は35歳未満では45.5%と最も高くなっており、年齢が高くなるにつれ低くなっています。一方、年齢が高くなるにつれ、「素材となる食料」の割合が高くなっており、ライフスタイルの違いがみられます。

なお、「調理済みの食料」の割合は、いずれの年齢階級も約2割となっており、大きな違いはみられません(図2)。

健康関連への投資

最後に、栄養成分の補給などに用いられる「健康保持用摂取品」について、最近の支出額の推移をみると、35歳未満では増える傾向にあります。35歳未満の平成17年の支出額は、1世帯当たり年間11,213円で、17年は12年の約5倍と大幅に増加しています(図3)。

図1 単身世帯(女性)の年齢階級別支出の構成比(平成17年)



注:「その他」は「家具・家事用品」と「教育」を含む。

図2 単身世帯(女性)の年齢階級別食料の構成比(平成17年)

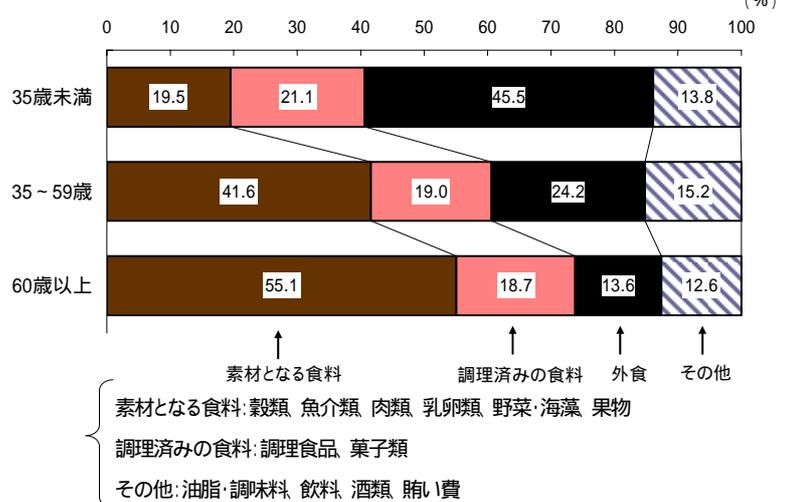
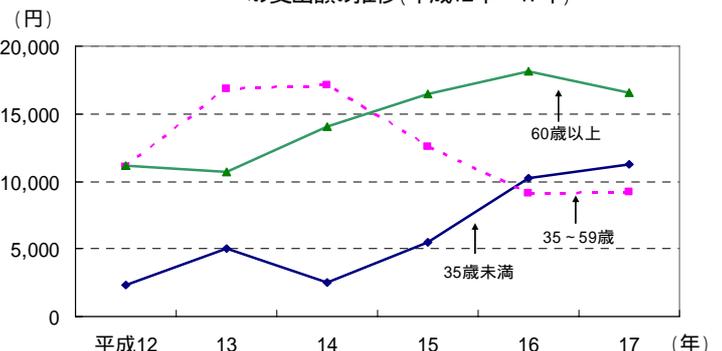


図3 単身世帯(女性)の年齢階級別「健康保持用摂取品」への支出額の推移(平成12年～17年)



【参考】平成17年における単身世帯(女性)の年齢階級別割合は、35歳未満26.8%、35～60歳22.2%、60歳以上51.0%となっています。
 (出典: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」2003年10月推計)